

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 14 日作成)

|                              |  |   |
|------------------------------|--|---|
| 小委員会名                        | バイオクライマティックデザイン小委員会  | 主 査 名：金子 尚志<br>就任年月：2019 年 4 月  |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学委員会<br>(熱環境運営委員会)  | 委員長名：秋元 孝之<br>主 査 名：永田 明寛   |
| 設 置 期 間                      | 2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月  |   |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な都市・建築の実現に寄与するパッシブ技術のデータベース化</li> <li>・住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築</li> <li>・地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策の検討</li> </ul> 初年度：熱シンポジウムの実施する。<br>2 年度：既刊「設計のための建築環境学」の第 2 版の出版に協力する。<br>3 年度：「設計のための建築環境学（第 2 版）」の出版を記念し、バイオクライマティックデザインの更なる周知を目的としたシンポジウムを共同開催する。<br>4 年度：新たな WG を立ち上げ、環境と建築を繋げる設計についての勉強会をミニシンポジウム形式で実施する。 |   |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | 委員公募の有無：無  |   |
|                              | 主査：金子尚志 (滋賀県立大学)<br>幹事：高田真人 (熊本大学)<br>委員：宇野朋子 (武庫川女子大学), 大塚弘樹 (旭化成建材), 菊田弘輝 (北海道大学), 源城かほり (長崎大学), 斉藤雅也 (札幌市立大学), 佐々木優二 (北海道立総合研究機構), 佐藤理人 (住宅・建築SDGs推進センター), 菅原 正則 (宮城教育大学), 田中稲子 (横浜国立大学), 中谷岳史 (信州大学), 長谷川兼一 (秋田県立大学), 畑中久美子 (岐阜市立女子短期大学), 廣谷純子 (みつつデザイン研究所) (50 音順 敬称略)  |   |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかたWG (委員 7 名)：本 WG は若手設計者および地方工務店の設備設計担当者をターゲットと定め、環境と建築を繋げる設計について、現状の問題点を把握するとともに、改善のための勉強会をミニシンポジウム形式での開催などによって環境の「みつけかた」から建築の「つくりかた」へつなげる手法を体系的に整理することを目的とする   |   |
| 2022 年度予算                    | 200,000 円  | ホームページ公開の有無：有<br>委員会 HP アドレス： <a href="http://kankyobio.aij.or.jp/">http://kankyobio.aij.or.jp/</a> |

| 項 目  | 自己評価   |
|--|--|
| 委員会開催数                                     | 5 回 (年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)                      |  |
| 講習会  |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>* 能力開発支援事業委員会承認企画 |  |
| 大会研究集会                                     |  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                         |  |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係)             | 1. 小委員会を 5 回開催 (第 5 回は 2023/3 に開催予定) し、幅広い情報交換と討議を行った。<br>2. バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた WG の主催で連続勉強会 (ミニシンポジウム) 「みつける・つくる 半屋外空間」の第 1 回を 2022.12.17 (13:00-15:30・オンライン) に開催 (参加者 45 名, 含：講演者)。 |

委員会活動の問題点  
・課題

1. 今年度は、前年度に共同開催したシンポジウム「再考 設計のための建築環境学」の講演内容をまとめ直し、建築のバイオフィリックデザインを広く周知するための小冊子を作成した。

しかしながら小冊子の印刷・配付に際し、小委員会の予算を使用することができず、別の手法を模索しなければならない結果となった。

結果、小委員会の予算を旅費以外に使用できない現システムの問題点を痛感した。

今回の経験を踏まえ、小委員会でシンポジウムを開催し、何か印刷物の印刷・配付する際は、シンポジウムのために徴収した予算で（＝小委員会の予算を使うことなく）、その年度内に実施する必要があることを、申し送り事項にすることとした。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

| 総合評価<br>(4段階評価)                 | A  | B | C | D |
|---------------------------------|--|---|---|---|
| 総合評価に関する<br>自由記述欄<br>(理由、特記事項等) | <p><u>小委員会の活動</u></p> <p>本バイオクライマティックデザイン小委員会の4年間の主な活動成果を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2019年度は、2019年10月に第49回熱シンポジウムを2019年10月26・27日に主催し、無事に成功させた。</li> <li>2020年度は、「バイオクラマティックデザイン改訂本作成」小委員会と協力し、既刊「設計のための建築環境学（彰国社）」の改訂に努め、結果、2021年3月に改訂本（第2版）が出版された。</li> <li>2021年度は、「バイオクラマティックデザイン改訂本作成」小委員会と共同で、シンポジウム「再考 設計のための建築環境学」を2021年12月4日に開催した。</li> <li>2022年度は、新たに立ち上げた「バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた」WGの主催で連続勉強会（ミニシンポジウム）「みつける・つくる 半屋外空間」の第1回を2022年12月17日に開催した。</li> </ol> <p><u>委員会内WGの活動</u></p> <p>2019年度より活動していた「熱環境への適応検討」WGは、2019年10月実施の熱シンポジウムでWGとしての活動を一旦完了させ、2020年度に解散となった。</p> <p>1年間の検討期間を経て、2022年度より新たに「バイオクライマティックデザインのみつけかた・つくりかた」WGを立ち上げ、ミニシンポジウム（勉強会）の第1回を2022年12月に開催した。今後は、この活動を当小委員会が主催する次の熱シンポに向けて継続的に実施して行く予定である。</p> |   |   |   |

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。